



0号

3名の先生方による「研究者対談」や「古写真ライブラリー」など、1号に向けて試みとなる企画を掲載。



Topic

Chohoの歩み

2002→2022

～これまでとこれから～

これまで冊子を通じて発信してきた高校生・受験生向けの情報を、よりリアルタイムでお届けするため、今後はWeb上で掲載することとなりました。ここでは、幻の0号からスタートしたChohoの歩みを振り返りたいと思います。



バックナンバー
こちらから!



1号



大学の理念や未来を語る

25号



61号



「一生懸命教育をしている大学」「志と覇気に満ちた若者が集う大学」「若い人がチャレンジできる大学」など、長崎大学の理念や未来、特に学生の教育に関する想いや改革などについて、発刊から今までの学長が語っています。

長崎大学の社会貢献



19号

長崎大学は研究や教育の過程で、グローバルな社会問題の解決に地域から貢献しています。最近では、新型コロナウイルス感染症の予防や治療などにおいても、本学の研究で得られた知見が活用されています。

長崎大学の研究

76号



研究現場へ
潜入

長崎大学における教育について、学生の研究室や進路選択、教員の講義内容など、10学部を有する総合大学として多様な観点から紹介。人気企画「この先生に教わりたい!」は今号を入れて4回、研究室紹介は3回にわたって特集しました。

78号



40号

知られざる
長崎大学の一端がココに!



長崎大学のココが知りたい! 誌上オープンキャンパス

55号

この先生に 教わりたい!

59号



大学と地域の間にある 垣根を取り払いたい

Choho創刊号は2002年10月に発刊されました。しかし、実は0号、つまり幻の準備号があります。大学にはそのつもりがなくても、学外の皆さんが抱いていた「敷居が高い」「象牙の塔」といった印象による「意識の垣根」。広報誌の発行にはそうした垣根を取り払う目的があることを、0号の裏表紙につづっています。

完成した広報誌は、「地域の中の大学なのだから、地域にもっと発信を」というコンセプトの下、一般向けの健康・病気ページ、長崎大学の紹介、古写真コレクションなど、大学の研究者の知識を広めるようなコーナーや、留学生のお国自慢といった読み物で構成され、駅や市役所の待合スペース、図書館などにも配布しました。

ちなみに、Chohoのネーミングは工学部の学生が名付け親です。多くの読者に「重宝(ちようほう)」され、長く愛され、

親しまれる広報誌を目指す願いが込められています。

高校生向けに 多彩な特集企画を展開

その後、受験生をはじめとする高校生の皆さんからの、進路選択にあたって大学における教育・研究内容や学生生活を知りたいという声に応える形で、「長崎大学のココが知りたい!誌上オープンキャンパス」(40号)、「この先生に

教わりたい!」(55号・59号・63号・79号)など、高校生を主な読者として想定した特集を組むようになりました。

Chohoのバックナンバーは、今後も本学のWeb上でご覧になれます。長崎大学の教育・研究や学生生活に関する多様な情報が蓄積されていますので、今後もぜひご活用ください。

また、高校生・受験生に向けた情報はWebに移行しますが、改めて同窓生や地域の皆さまをターゲットとした新たな広報誌を発刊予定です。

Chohoのバックナンバー、誌面を再編集した記事、高校生向けの今後の情報は、すべて受験生の入試情報サイトをハブとして発信します。高校生の知りたいこと、大学について知ってほしいことを掲載していきますので、ぜひこのページをブックマークしたりSNSをフォローしたりして本学の最新情報を入手してください。



受験生の
入試情報サイト

Choho編集長
山口純哉
経済学部准教授

